

# EDUCAUSE参加報告

神戸大学 情報基盤センター

## 1. 年次大会の概要

- 開催日 : 2011年10月18日～21日  
会場 : ペンシルバニア州フィラデルフィア  
参加者 : 参加者の出身地は51ヶ国  
参加者の職位、職種は様々  
現地参加の登録者4,557名  
Online参加の登録者368名（推定2,000名以上）  
CIO及びシニアITリーダーの登録者863名  
セッション：メインの3日間だけで約420セッション

## 2. 神戸大学からの参加者

- 武田 廣 (CIO)  
浅野 茂 (企画評価室准教授)  
鳩野 逸生 (情報基盤センター副センター長)  
尾川 正美 (情報基盤センター特命教授)  
綿貫 賢太 (情報基盤センター事務システムグループ)

## 3. 大会参加報告

参加者：浅野 茂

大学経営，リーダーシップ，データウェアハウスの構築に関する計16セッション  
に出席。

(Pick up)

### 1. Access to Data Tomorrow Means Good Data Management Today

- National Science Foundation (データ請求者)
  - ・簡易フォームによるデータ収集（2ページ以内）
  - ・データ収集ポリシーの明確化と徹底（省力化及び共有）
  - ・社会に向けてどのような情報及び成果を発信するかが計画書審査のポイント
- The Pennsylvania State University (データ提供担当の実務者)
  - ・データ請求者から求められている要素をしっかりと理解する
  - ・「誰が」「どこに」「どのような」情報を持っているかを明確にする
  - ・図書館，情報部門，事務部門，教員でタスクフォースを構成して各種計画書を作成
- University of North Carolina at Chapel Hill (現役のCIO)
  - ・enterprise data から research data への発想の転換
  - ・Stewardship（管理責任）をもって情報を取り扱う

- ・Provost の下にタスクフォースを編成して各種業務に当たっている

(参加所感)

- ①高等教育機関へのシステム及びコンサル業務を提供する業者が日本に比して圧倒的に多い。(出展企業数：265社)  
EDUCAUSE は企業と高等教育機関の接点の役割を担っており、会員企業へのメリットとして、EDUCAUSE に参加している大学の CIO (Chief Information Officer) や情報担当副学長に会場で直接アプローチすることができる利点を提供している。一方、大学関係者には EDUCAUSE 参加を通じて、IT 企業と様々な関係を持つ機会を享受している。そのため EDUCAUSE の会員企業は世界を代表する IT 企業 (Microsoft, IBM, Oracle, CISCO, Google) に加えて、新技術、新商品を開発したばかりのベンチャー企業なども多く展示ブースを出していた。
- ②高等教育機関の執行部 (特に IT 担当) が、IT 活用及びデータ収集に積極的に取り組んでいる。(CIO 及びシニア IT リーダーは参加登録者数が 20%弱)  
EDUCAUSE は学術団体ではないことから、報告者の多くは実際の大学執行部または事務部門の職員に加え、システムを提供する企業から構成される。実際のシステム導入及び運用における課題や、これらの課題克服に向けた取組などが大学から提示され、会員企業がその解決策を提示していくという課題解決に向けた流れができています。
- ③高等教育関係者が EDUCAUSE 等を通じて強いネットワークを構築しており、自大学及び他大学の事例を共有することで、全体の底上げが図られている。  
年次大会のみならず、地域ごとで自主的な勉強会等が定期的に企画・運営されており、大学関係者は積極的に参加している。また、事例は成功例のみならず、失敗例についても多くの報告がなされており、実践面での示唆に富んだ場が形成されている。

参加者：鳩野 逸生

(Pick up)

1. Mobile Applications in Campuses
  - ・ Keeping Pace: Mobile Application Strategy and Implementation
  - ・ Approaches to Mobile Development “Lightning Round”
  - ・ Researching Mobile Learning at ACU: Conclusions, Questions, and Future Directions
  - ・ UC/UCLA Mobile Web Framework
  - ・ Mobile Learning: Apps that Change Distraction to Discussion
2. Beyond the LMS: Integrating Social Media and Cloud Services to Meet Student Needs
3. Data-Intensive Research: The implications of the “the Fourth Paradigm” for University
4. Assessing for Deeper Learning Learning Analytics

(Mobile 環境まとめ)

1. アメリカの各大学で(実) 導入が進んでいる

- ・多くの実践事例？
  - ・Mobile 環境の実践・評価を体系的に実施している大学も
2. 開発フレームワーク
- ・MIT Mobile Framework
  - ・UC/UCLA Mobile Framework
  - ・学内にある程度の開発チームを抱えている
3. ハードウェア（所持率）などは本学と大差なし

参加者：尾川 正美

(Pick up)

1. CDS と CCS のサマリー報告 (EDUCAUSE の 2 つのベンチマーク (CDS・CCS))

<CDS の今年のトピック>

- ・研究活動支援に関しては投資増加，教育関係で減少傾向
- ・IT 技術料金の徴収大学は DR 大学で約 65%
- ・e - Learning の LMS は BA/LA のみ OSS 導入が多いが他は商用 LMS を利用
- ・学生 PC の所有，DR 大学は 70%以上が義務化 or 奨励
- ・学生 mail の外部委託傾向 DR 大学で 60%が実施，計画中 22%
- ・運営管理システムは 85%がベンダー製品，運営も 79%内部
- ・緊急連絡用に学生の携帯電話番号を登録 94%
- ・セキュリティについて DR 大学では 80%が専門要員を配置
- ・災害対策：24%二次電源無し，77%三次電源無し，1 年以上訓練していない大学が 81%，DR 大学はキャンパス間の相互 Backup を 75%で実施，Sustainability 計画を 60%が作成。

<CCS：トピックと洞察&2010 と 2011 の比較>

- ・Mobile アプリ導入が増加  
公立 32.5% ->55.3%，4 年制私立 25.2% ->43.6%
- ・Mail 以外は Cloud への動きが遅い  
管理業務 4.4%，BCP6.5%，CRM10.9%，LMS27.8%
- ・予算削減圧力の減少  
41.6% ->35.8%特に 4 年制私立では 41.9% ->31.9% ->24.7%
- ・LMS 市場の変化  
Blackboard が減り (57.1% ->50.6%) D2L, Moodle, SAKAI が進展
- ・e - Book と Digital Contents が重要な教育資源になるとの見通しが一層強まった。  
(e - Book に関し K. Green は市場機会や実現技術で未成熟と指摘)

(参加所感)

1. DR や BCP に関するセッションに幾つか参加した，日本の災害の影響？特に目新しい事は無かった。
2. 昨年，一昨年と比べて全体にやや活気が無かった？
3. 参加者も 4,000 名程度とやや減少，日本からは増加
4. やはり，言葉の壁が高い

参加者：綿貫 賢太

クラウド関連，モバイル関連，セキュリティ関連の計17セッションに参加。

(Pick up)

1. Mitigating Cloud Security Risks Through Partnerships
2. Data Security: It's All About the Desktop
3. As Learning Goes Mobile

(参加所感)

米国まで研修に行った意義として、「Data Security」のようなセッションに参加できたことがあげられる。

日本では、EDUCAUSE 年次大会のような場で所属している組織の失敗を発表することは少ないが、このセッションはまず自分たちの失敗例から始まった点で日本と異なっていた。その経験を経て、ポリシー策定、構成員の意識改善、技術導入等において、どのようにしてベストプラクティスを実践していったかというケース報告だった。

<おすすめセッション>

1. 基調講演
2. 事前に資料を提供しているセッション
3. 聞き取りやすい演者のセッション
4. 人気のあるセッション

(主要講演，オンラインセッション対象，参加登録者が多いセッション等)

#### 4. 2012 年年次大会概要

場 所 : コロラド州デンバー

期 間 : 2012 年 11 月 6 日～9 日

以 上